児童発達支援事業＆放課後等デイサービス

こどもステーション牛久

こどもステーション牛久は、令和4年3月31日をもって児童発達支援・放課後等デイサービス事業を終了しました。平成18年4月、児童デイサービスとして開設してから16年、保護者・児童の皆様をはじめ、地域住民の皆様、関係機関の皆様方には多大なるご理解、ご協力をいただき心より感謝申し上げます。こどもステーション牛久の子ども達、職員につきましては令和4年4月1日より、こどもステーション三和にて活動してまいりますので、引き続きよろしくお願い致します。

こどもステーション三和

今年のこどもステーション三和のハロウィンは仮装して魔女や囚人に変身！かぼちゃの置物を的にした輪投げゲームを行いました。かぼちゃの的に輪を入れるのは意外と難しく、輪が入ると「やったー♪」と喜ぶ姿がみられました。おやつでハロウィンサブレを食べ、みんなゲームで盛り上がった後は“お菓子をくれなきゃいたずらするぞ(^^)/”といった勢いで、毎年恒例の事務所襲撃を果たし、ハロウィンを楽しみました。

こどもステーション菊間

「わぁ～美味しそう♪」たくさんのパンを前に大歓声があがりました！もみの木でパンを用意してもらい、児童デイ菊間にて『パンバイキング』を実施しました。
1人10種類は食べられるように作って頂き、子供達はたくさんのパンを前に「どれから食べようかな～？」「私はこれ！」「僕はこっち！」と、話していました。

たくさん迷って決めた子、すぐ決められる子、選ぶのに子供達一人ひとりの個性が出る場面でした。美味しいパンを嬉しそうに頬張る子供達の笑顔、大好評のパンバイキングとなりました♪

こどもステーション東国分寺台

「これからみんなの好きなお菓子を買いに行きます！」「わあっ」と手をたたく子供たち。コロナ禍で、本物のお店にお買い物には行けないけれど、こどもステーションのお部屋がお菓子売り場に変身。持ってきたお小遣いでお買い物をするのです。好きなキャラクターのついたお菓子を真っ先に手にする子、たくさんあって迷っている子、ちょっと遠慮がちな子・・・買ったお菓子をテーブルに並べて「いただきます！」いつものおやつも好きだけど、自分で好きなものを選んで食べるのは楽しい！ニコニコ笑顔の様子に職員も笑顔になりました。

法人 HP、Facebook、求人情報はこちらから

きききょうタイムズ TIMES

No.77
令和4年4月4日発行

発行：社会福祉法人ききょう会
編集：吉沢学園編集部

〒290-0523　千葉県市原市吉沢 117 番地
TEL.0436-98-1562　FAX.0436-98-1398

ドローンチーム『きちさわ DDAT』始動!!

この度、ききょう会では災害対策の一環及び、行事や日常風景の撮影のためにドローンを購入し、災害対策ドローンチームを立ち上げました。チーム名は『**きちさわ DDAT（ダット）**』です。

チーム一丸となって頑張ります！

去る2019年の大雨被害の際には、吉沢学園周辺のみならず加茂地区のいたるところでがけ崩れや地滑りが発生し、人が近づけない状態になりました。

3年近くたった現在でもその爪痕は残っています。こうした経緯を踏まえ、ドローンには災害発生時の被害状況の把握や生存者の確認といった役割が期待されます。また、普段は地上から確認できないような屋上や外壁高所の破損、汚損のチェックにも活用されます。もちろん、非常時だけでなく日常の行事の際にも利用者皆さんの様子を映像記録として残す役割があり、すでに試験運用として年賀状用のドローン撮影や行事の様子の空撮、プロモーションビデオの素材映像の撮影などに役立てています。

今後はこれら以外にも様々な企画を立て、地域にも貢献できるよう活動していきます。

ドローンからの撮影風景

学園イベント

吉沢運動会

今年も新型コロナウイルス感染防止の観点から市のスポーツ大会、「手をつなぐスポーツの集い」が中止となりました。そこで、吉沢学園内で「運動会」を開催することにしました。

当日は天候にも恵まれ、まさに運動日和！準備体操、選手宣誓を行い、いざ競技開始です！利用者さんも職員もみんな笑顔でそして全力で競技に参加する事ができました。お昼には厨房さんが作って下さった美味しいお弁当に舌鼓を打ち満足そうな表情を浮かべ「吉沢運動会」を満喫する事ができました。

収穫祭

収穫祭係の職員を中心に作業や土日の休みを利用して、利用者さんと協力のもと、さつま芋畑の草刈りや水撒きを行いました。収穫するまでさつま芋が出来ているか不安になる事もありましたが、収穫日当日になり、いざ畑を掘り返してみると大きなさつま芋がたくさん出来ていて職員も利用者さんも大喜び！大変驚きました。収穫したさつまいもを手に取り皆と一緒に笑顔で写真をパシャリ！掘った芋は利用者の皆さんと職員で洗い、厨房さんにふかし芋として提供して頂きました。

また、東台の畑には大きな柚子が沢山出来ていて、楽しく収穫することができました。

炊き出し訓練

10月25日、災害時に備えた訓練の一環として「炊き出し訓練」を行いました。

訓練内容はグラウンドで大釜を使用し炊飯するというものです。

施設敷地内で拾い集めてきた杉の葉や枯れ枝へ点火し、火の勢いを徐々に大きくしながら薪へと火を移していきます。慣れない作業に悪戦苦闘しながらも、火加減に注意しつつなんとか米が炊きあがりました。大釜の蓋を開けてみると白い湯気と共に炊きたてのご飯の良い香りが立ち上ります。炊き上がりは上々の様です。その後、炊き上がったご飯はカレーライスとして利用者さんに振舞われました。利用者さんが「また外で食べたいね」「おかわりしてもいい？」と話掛けてくれたことがとても励みになりました。

今後も繰り返し訓練を行い、災害や悪天候の場合でも慌てずに取り掛かれるよう努めていきます。

学園イベント

外出

年末から年始にかけての特別日課中、学園の利用者全員が食事に出掛けました。コロナ禍なので普通のレストランには行けませんでしたが、私たちには法人内で営業している「もみの木」や「TABI café」があるじゃないか!!しかも貸し切りでの利用が可能という事で、利用者全員で行く事になりました。

各棟やグループでは事前にメニューを見ながら「どれにしようかな？」と頭を悩ませたり「ハンバーグに決めた!!」など、出掛ける前からワクワクして待ちきれない様子です。

当日は少しだけオシャレに着替えて、颯爽とバスに乗り込み、いざ出発！カフェでは特別メニューやバンバイキングもあり、学園とは違った雰囲気で、やっぱりお出かけは最高!!

吉沢学園クリスマス会

何事も自粛や縮小、制限を余儀なくされ、今年度も保護者は招かず、利用者さんと職員のみでクリスマス会を実施しました。クリスマス特製ランチ（今年はロールサンドウィッチプレート）を食べた後は、感染症対策を行った上でカラオケ対抗戦！職員は少しでも楽しい雰囲気づくりをと、総出で仮装をして会を盛り上げました。なかには顔一面を黄色に塗り上げたクマのプーさんの仮装をしたツワモノ支援員も!!

最後は、みんなお待ちかねのチョコレートケーキを食べて大満足！保護者会からご寄付をいただき購入したクリスマスプレゼントの傘をもらいハッピーエンドとなりました。

来年こそは、保護者の皆さまと一緒にクリスマス会を開催することができるよう願っております。

学園イベント

【TABIcafé】市原鶴舞バスターミナルと連結!!!

TABI Caféが便利になりました！お隣の市原鶴舞バスターミナルとの連絡道が完成し、バスを待つ間、おでかけの後にご利用しやすくなりました。「いちはらアート×ミックス」期間中は無料周遊バスのコースになっていたため、観光を楽しむ方がたくさん来店され、食事をしたり、温かいコーヒーや紅茶を飲みながら休憩したり、お土産に焼きたてのパンや季節の野菜を購入したりとそれぞれに楽しんでおられました。

地域奉仕

地域奉仕の一環として定期的に施設周辺の清掃を職員と利用者さんで一緒に行っています。

今年は10月の台風通過後に施設周辺のU字溝を清掃し、晩秋には施設の近所にある神社で落ち葉集めを行いました。周辺のU字溝も神社も周辺地域の皆様と共有で使用している場所になりますので、これからも地域の環境美化に貢献できるよう頑張りたいと思います。

山下 毅さんの還暦祝い

学園3棟利用者の山下 毅さんが、今年1月の誕生日で満60歳となり還暦を迎えられました。1月22日に3棟にて還暦のお祝いを行い、赤いちゃんちゃんこに身を包むと、初めは照れながらも喜んでいらっしゃいました。記念撮影では、3棟のメンバー全員に囲まれ嬉しそうな表情をされていました。誠におめでとうございます。これからも健康に気をつけて笑顔でお元気にお過ごし下さい。

ジョブハウス　もみの木

新年を迎え、ジョブハウスもみの木では新型コロナウイルス対策として今まで以上に店内の消毒や、職員と利用者さんの健康管理に気をつけ運営しております。さて、パン班ではサンドイッチを作り、主にデリバリーを中心に販売をしております。配達先からもパンやサンドイッチもと言う要望が多く、また、コロナ禍によりお客様も来店してお食事する方より、テイクアウトしていく方も増えてきております。そんなお客様の期待に応えるべく、朝から職員総出でお弁当作りをしております。

浅井小向デイサービスえん
（地域密着型通所介護事業）

3月のとある日の日常風景です。

趣味活動の塗り絵に取り組まれている方、編み物や縫物、脳トレ等を行っている方など様々。

色や形、作り方等、自由に行って頂き、皆様個性ある作品に仕上げられています。

脳トレでは回想や計算なども意欲的に行われ、談笑も交えながら活気ある時間を過ごされています。また、スタッフが作成したイラスト付きの脳トレも好評を頂き、楽しみながら取り組んでいらっしゃいました。

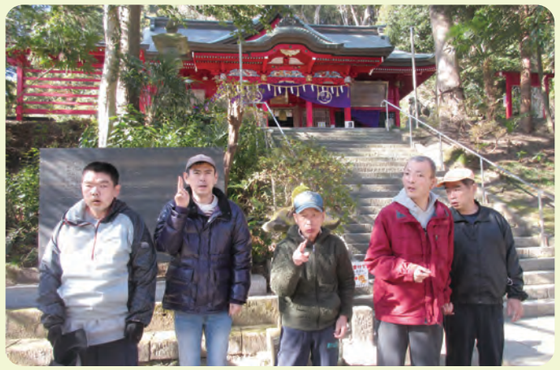
グループホーム

森のイルミネーション2021

息白し星の夜、クリスマス前に『いちはらクオードの森』へイルミネーションを見に行ってきました。夕食後にバスに乗り込むと「どこに行くの？」と不安そうな声もありましたが、気付いて気分は少しずつウキウキモードへ！

会場に入ると光る湖が広がり、気分は最高潮へ！「きれいー」「不思議ー」と声が漏れていました。散策を進め、トンネルの先にはかわいい動物たちが迎えてくれるメルヘンの国が広がっていました。毎年、趣向をこらした冬のイルミネーションをみんなで楽しむ事ができました。これからも季節を感じる事ができるイベントに参加していきたいと思います。

初詣



新しい年が明け、青空のなか初詣に出掛けました。ホームを出た時は「さむーい」と手をこすり合わせていましたが、移動を始めるとすぐに笑顔で「ご飯食べに行きたーい」「旅行したい！」と楽しそうにおしゃべりしながらホーム近所の神社へ移動。神社に着くと真剣な顔に変わり、それぞれのお願いを届けてきました。

職員も利用者さんの健康と安全、そしてコロナウイルス感染の終息を願ってきました。

今年一年がみんなにとって良い年になりますように。

バレンタインデー調理実習

2月13日、今年も女性グループホームは調理実習を行いました。例年ならホーム合同で行うところ、今年は新型コロナウィルス感染症拡大を懸念し、ホームごとに開催しました。今回のメニューはバレンタインデーが翌日に控えていた事もあり、チョコを使用したおやつの『チョコバナナ』を作ってみました。湯煎でチョコレートを溶かす工程ではお湯が冷めていくので時間との戦いとなりました。食べやすさを追求してバナナをスライスしたり、竹串を刺して屋台感を出したり、余ったチョコレートはクッキーやビスケットにかけてみたりと、出来上がりには各ホームらしさが溢れていました。

ジョイサポート三和

クリスマス会

年間行事の中でも一大イベントであるクリスマス会を、昨年12月17日に開催しました。各事業ごとに、披露する余興を事前に撮影し、当日はそれぞれの事業ごとに上映会をしました。就労はサスペンス劇場のストーリー構成、介護はコロナVSワクチンの対決とダンス構成という内容でした。利用者と職員が一緒になって動画作りをする事で、どちらも好評をいただく事が出来ました。

チキン、オードブル、ケーキなどを食べながら、沢山の笑顔や喜びの声を聞くことができ、コロナ禍での開催ではありましたが、とても素敵なクリスマス会となりました。

餅つき大会

ジョイサポート三和では、新年を迎えた1月14日に餅つき大会が行われました。

コロナ禍で外出先の制限や、自粛を余儀なくされる生活の中での開催であった為か、皆さんとても楽しみにされており、多くの利用者の方にご参加いただきました。

状況も鑑みて、今年は利用者と職員のみの参加で、就労と生活介護に分かれて行いました。

青空のもと、グラウンドに杵と臼を用意して、蒸かし器で蒸かした餅米を、職員と利用者とで交代しながら「よいしょ！よいしょ！」と掛け声を出しながらつきました。お餅は、あんこ・きな粉・磯辺・給食のカレーうどんに入れるという、４種類の中から選んでもらい、皆で食べました。「美味しかった」「楽しかった」という声を沢山頂き、とても良い餅つき大会になりました。

節分会

2月は1年を通して寒さが厳しい時期ですが、2022年2月3日（節分）は天候に恵まれました。ジョイサポート三和は暖かい日差しの中で節分会を行いました。

コロナ禍である為、感染予防対策として生活介護・就労は時間を分けて豆まきをしました。中庭に赤鬼・青鬼が登場すると、利用者さんも職員も福升を手に、外に出て鬼退治をしました。マスク越しに「鬼は外、福は内」の元気な声が聞こえ、力強く鬼に向かって豆を投げる姿が見られました。

豆＝（魔滅）で鬼＝（コロナ）退治、鬼が退散してジョイサポート三和に沢山の福が呼び込まれる事を祈って節分会は幕を閉じました。

中核地域生活支援センター　いちはら福祉ネット（千葉県委託事業）

中核地域生活支援センター大会 in 2021

今年度の中核地域生活支援センター大会のテーマは『つながり続けることから見えてきたこと』。昨年度同様、撮影した映像をYouTubeで公開するという方法で行われました。
初めに中核地域生活支援センターの活動報告があり、その後当事者のインタビュー、県内でつながり続ける支援をされている方々の実践報告、一橋大学猪飼教授を交えたクロストークが行われました。

当事者のお話の中で、初めは人間不信でやりとりに積極的になれなかった当事者の方が、中核の支援者が粘り強く連絡や声掛けをしてくれたことで支援者への信頼感へとつながっていった過程が語られていました。さまざまな形でつながり続ける支援が、孤立から脱却する為の大切な支援になることが理解できる大会となりました。

生活困窮者自立支援事業　いちはら生活相談サポートセンター（市原市委託事業）

特別授業 ミライ☆ナビ ～先輩に受験体験談を聞いてみよう！～

いつもは中学生が学習をする場の「未来くらぶ」ですが、この日は卒業生である高校生を招き、高校受験を控えた後輩たちのために、入試に向けての過ごし方や当日の様子などの体験談を話してもらいました。受講生は、苦手教科の克服方法、悩みは誰に相談したか、などの質問をして、真剣な表情でメモを取っていました。

卒業生からは、「後悔しないよう諦めずに頑張ってほしい」「入学後も頑張ることが大切だよ！」といった温かいメッセージを頂きました。終了後は、市内にある小野木医院の小野木先生のご寄付により、クリスマスプレゼントのお菓子を子どもたちへ配布することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

障害者グループホーム等支援事業（千葉県委託事業）

市原圏域支援ワーカー
部会長　相川 大祐

第13回 千葉県障害者グループホーム大会開催

昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、Youtubeでの動画配信を行いました。自宅や職場で動画を視聴できるということもあり、千葉県内外から約500名のお申し込みがありました。

「自分らしく生きるための意思決定支援とは」をテーマに、特定非営利活動法人PACガーディアンズ理事長　名川勝氏より、意思決定支援の基本的な考え方をご説明いただきました。

また、社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会常務理事　濱本典子氏より虐待防止・権利擁護の視点に立った支援のありかたをご説明いただきました。

日々の気付きの積み重ねが大事であることや入居者の話を丁寧に聞く姿勢が大事であるとのお話を参加者から頂きました。

理事長　名川 勝 氏

常務理事　濱本 典子 氏